別紙様式1

令和2年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

三原市立本郷小学校　校番（17）

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体　キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域を愛し，確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し，地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	すすんで学び，よく考え豊かに表現する学力を育てる。	（1）◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上（算数科）	○指導の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○フォローアッププリント等の活用 ○チャレンジタイムの工夫・改善	単元末テスト（算数科）の平均点が80点以上の児童の割合	85	82		96%	B	学年が上がると学力差がひらいたり，学級内でも差が大きかったりしている。個々の学力を把握し，授業改善の他に，家庭学習や個別の支援等で基本的な問題を確実に解ける力を養う必要がある。	今後も学力の定着を図るために，各学年で日常的に取組を進めるとともに，学校全体で課題と成果，手立て等を交流・共有していく。また，四則計算など基礎・基本の力を付ける取組を継続していく。	○			基礎学力を大切に，時間をかけて取組んでほしい。 コロナ禍の中，家庭学習による学力の差がでてきたのではないかと心配をしている。
		（2）誰もが学ぶ喜びを感じる，主体的で対話的な学びの創造 ★ユニバーサルデザインの導入 ★論理的思考力・コミュニケーション能力育成の場の設定	○1時間授業の工夫・改善，単元構成の工夫・改善 ○他教科・他領域との関連場面の意図的設定 ○学びの変革指導案の全員作成 ○本郷スタイルの継続と徹底	授業が分かって楽しい児童の割合	90	83		92%	B	授業モデルを基に児童が授業の流れを理解し，問題を解決しようと前向きに取組んでいる。しかし，苦手意識をもつ児童が一定数いる。また，前期は，感染防止のため，話し合い活動も制限されたり，参観授業等を実施できていなかったりして，昨年度までのように取組むことが難しく，児童も教員も交流場面が少ないという課題がある。	後期は，講師を招聘した研究授業や話し合い活動などを新しい生活様式に対応させながら取組んでいく。児童が関わり合いながら学習したり，日々の振り返りの中で自分の成長を実感したりする場を設定する等，授業モデルを活用しながら授業改善に取組んでいく。	○			教職員の児童に対し，寄り添った取組がなされている。 授業改善とともに集団の力の活用や支援が必要な児童への手立てを考えながら，引き続き取組を継続してください。
豊かな心	地域を愛する心をもつとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣を身に着けさせる。	◎考え議論する道徳の推進 ★授業が楽しい95％以上	○問題解決型の指導過程等，指導過程の工夫	道徳科が楽しいと思う児童の肯定的割合	95	93		98%	B	「道徳科が楽しい」という肯定的評価が93 %であり，道徳科の授業改善を進めてきた結果，楽しみにしている児童の割合は高い。	楽しみにしている児童の意欲に合わせて，自分の生き方をじっくりと考えていけるような指導方法の工夫を継続していく。	○			道徳が楽しいと思う児童の割合が高いのは，授業改善の成果だと考えます。
		◎道徳教育・生徒指導の小中連携。 ○道徳時間と体験活動の結びつけ ○一校一貢献活動の充実 ★自己肯定感90％以上 ★感謝の気持ちの表現85％以上	○児童会活動の主体的活動充実 ○地域貢献活動の充実 ○強化週間の実施 ○児童会活動との連携	○自分にはよいところがあるという児童の肯定的割合 ○感謝の気持ちを表している児童の肯定的割合	90 85	82 95		91% 112%	B A	前年度に比べ，肯定感に伸びがみられない。行事等の中止により，児童相互の評価の場を多く設けることができなかった。道徳科の授業や児童会の取組によって，「感謝」の気持ちを表す意識を高めることができた。	今後も，意図的に児童を評価する場を設定し，一人一人が置かれている背景や課題を明確にし，個別に支援を行っていく。継続して，道徳科の授業や児童会の取組を通して多くの支えがあることに気付かせていく。	○			
		○地域（人・もの）を活用した学習の推進 ★GT招聘，地域学習の推進	○地域ゲストティーチャーの導入 ○各教科，道徳の時間，総合的な学習の時間等で地域活用学習の導入	各学期ごとに学年で地域学習，ゲストティーチャーを積極的に活用した数	100	66		66%	C	2年生では野菜名人さん，3年生では観光協会の柳川さん，5年生では湯藤さんや高田さん，6年生ではPTA会長さんや有定さんをゲストティーチャーとして活用できた。しかし，新型コロナウイルスの影響もあり，ゲストティーチャーを活用できなかった学年もあった。	今後も，各教科や道徳の時間，総合的な学習の時間などの地域活用学習において，地域を活用した学習の推進を行っていく。10月以降，各学年で順次ゲストティーチャーを活用する予定を立てていく。	○			地域のゲストティーチャーの導入により，児童の見守りなど学校への信頼関係が成立している。 いじめ・不登校については積極的に家庭と連携を密にして取組を継続されている。
		◎いじめ・完全不登校の根絶 ★いじめ0，完全不登校児0	○家庭との連携 ○指示的風土の学級経営	いじめ・完全不登校児童の数値	0	いじめ1件 不登校1名		0%	D	暴力事案は0・いじめ事案は1件(1学期)である。児童のおかれている状況を見逃さず，早期の取り組みを継続してきた。30日以上欠席した不登校児童は1名である。積極的に家庭と連携していく。	いじめに関わって積極的認知を行い，早期発見・迅速な取組を継続していく。 毎日の問題行動等の全体共有の場は継続していく.	○			
健やかな体	体力を高め，食に対する高い意識を育てる。	◎新体力テスト結果の向上 ★全種目中77／96全国平均以上	○体育朝会の実施 ○体育科授業の工夫と改善	体力テスト結果 全国平均以上達成割合（%） （課題項目の再テスト）	全種目中7／8 全国平均以上	0%		0%	D	今年度は，体力テストを実施することができなかった。体育科の授業の工夫・改善として，授業開始時にサーキットトレーニングや短縄跳びを取り入れて全学年で実施している。	今後，昨年度の課題項目（握力・立ち幅跳び・20mシャトルラン）のみを測定し，昨年度の全国平均と比較し，指導の工夫改善を進めていく。	○			
		◎食育の推進 ★残菜0の推進0の日週3日	○食育指導・保護者啓発活動の実施 ○集中取り組み期間の実施	集中取り組み期間に残菜0（週3日以上）にしたクラスの割合（%）	90	100%		111%	A	全クラスが取り組み期間中3日以上給食を食べ切ることができた。これまでの取組の効果があり，給食を食べ切ろうとする意識が高まってきた。	今後も，保健だより等を活用し，保護者への啓発活動を進めていく。また，栄養教諭を招聘し食育指導を実施していく。	○			朝ごはんをしっかり食べる生活習慣を身につけることが集中力を養うことができるように思う。
		○清掃活動の質の向上 ★無言，時間いっぱい，隅々	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	3つの項目を達成した縦割り班の割合（%）	80	81%		100%	A	7月に入り，縦割り班掃除を開始した。無言で時間いっぱい，隅々まで清掃活動に取り組むことができる児童が多くいた。6年生がリーダーとして，自覚と責任をもって掃除を進めてくれていたことが目標達成につながった。	今後は，清掃の質の向上を図るために，児童が主体的に清掃活動ができるように，清掃活動の意義やよりよい清掃活動在り方について考えさせるようにしていく。	○			縦割りの掃除活動は効果的な取組だと思います。成果も出ていると思います。
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。	◎情報を公開し，説明責任を果たし，満足度向上 ★月1回以上，学校だより・学期に一回以上の生徒指導だよりの発行	○学級通信，学校だより，ホームページでの情報発信 ○学級懇談会，個人懇談会をとおして説明責任を果たす。	行事や家読の後，保護者へのアンケートと感想による子供の成長への満足度の割合（%）	90	50%		56%	D	参観日，学級懇談会が実施できなかったため，学年通信・学校便り，ホームページに学校での児童の活動の様子をできるだけ掲載していくようにした。 行事の後に保護者の感想，ご意見を聞く予定だったが実施できなかった。	今後3回行われる予定の学級懇談会の内容を精選し，新しい学校スタイルのもとでの児童の様子，保護者の思いをしっかりと把握していく。 定期的に(月１回以上)学年だより，学校便り，ホームページの更新を継続していく。	○			積極的に情報発信を行っている。 自己評価をDとされているが，コロナ感染防止のため，やむを得なかったと考えます。
		○親子読書の推進 ★読書ボランティアや家庭読書	○読書ボランティアの招聘 ○親子で家読書の推進			0%		0.0%	D	読書ボランティアを招聘することができなかった。朝の三つ巴っ子タイムの後，読書時間は確保した。毎月23日を家読書の日とし，親子での読書を呼び掛けていった。	10月以降，学級単位で読書ボランティアの協力により，読み語りを再開していく。 家読書は継続して推進していき，家庭での読書の推進を継続していく。	○			
		○タイムリーな服務研修の実施 ★時期に応じた研修内容，全職員の担当割り当て	○不祥事防止委員会が中心となり，マンネリ化，無自覚がない内容を計画	服務や仕事に対する職員への意識を向上させる。満足度の割合（%）	80	78%		97%	B	タイムリーな内容に応じた服務研修は，継続して行うことができている。 学校生活が大きく変わる中，服務や仕事に対する職員へのアンケートを行い，充実感を得られる業務内容をめざしていった。	子どもと向き合う時間の確保を中心に，職員がアイデアを出していきながら，充実した新たな学校生活のスタイルを作り上げていく。	○			タイムリーな服務研修を継続してください。
		◎働き方改革 ★次世代の働き方への体制づくり	○時間外勤務の短縮 ○計画的な定時退校日の実施	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100	100%		100%	A	定時退校日を定め，時間外勤務の短縮を図るための体制作りを行ったが，昨今の課題に対する業務内容も含め，日々の業務内容の精選は十分に図ることができていない。	現状では3か月がクリアしているが，重点的に時間外勤務を減らす月を設けて取組みを進めていく。 引き続き，職員の現状を把握しながら業務の精選を図っていく。	○			業務内容の精選とともに，職員の意識改革が必要だと思います。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。